TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　303語

The Bees and Wasps, and the Hornet

ミツバチとジガバチとスズメバチ

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：A LibriVox Volunteer

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　木の中で見つかったはちみつは、ミツバチのもの？ジガバチのもの？ スズメバチのさいばんかんの前で、さいばんがはじまります。



A store of honey had been found in a hollow tree, and the Wasps declared positively that it belonged to them. The Bees were just as sure that the treasure was theirs. The argument grew very pointed, and it looked as if the affair could not be settled without a battle, when at last, with much good sense, they agreed to let a judge decide the matter. So they brought the case before the Hornet, justice of the peace in that part of the woods.

When the Judge called the case, witnesses declared that they had seen certain winged creatures in the neighborhood of the hollow tree, who hummed loudly, and whose bodies were striped, yellow and black, like Bees.

Counsel for the Wasps immediately insisted that this description fitted his clients exactly.

Such evidence did not help Judge Hornet to any decision, so he adjourned court for six weeks to give him time to think it over. When the case came up again, both sides had a large number of witnesses. An Ant was first to take the stand, and was about to be cross-examined, when a wise old Bee addressed the Court.

"Your honor," he said, "the case has now been pending for six weeks. If it is not decided soon, the honey will not be fit for anything. I move that the Bees and the Wasps be both instructed to build a honey comb. Then we shall soon see to whom the honey really belongs."

The Wasps protested loudly. Wise Judge Hornet quickly understood why they did so: They knew they could not build a honey comb and fill it with honey.

"It is clear," said the Judge, "who made the comb and who could not have made it. The honey belongs to the Bees."

> **Ability proves itself by deeds.**

中がからっぽになった木の中に、はちみつがたくさんたくわえてあるのが見つかりました。ジガバチたちは、「これはぜったいにわたしたちのものだ」と言いはりました。ミツバチたちも、その宝物は自分たちのものだと、同じようにかたく思っていました。言いあらそいはだんだんはげしくなり、たたかわなければかたがつかないように思われましたが、さいごには、かしこいことに、さいばんかんに決めてもらうことにしました。そこで両方は、森のそのあたりのさいばんかんをしているスズメバチのところへ、このけんをもちこみました。

さいばんかんがさいばんをはじめると、しょうにんたちが、からっぽの木の近くで、はねのある生き物を見たと言いました。その生き物は大きな音でぶんぶんいっていて、体はミツバチのような、黄色と黒のしまもようだったそうです。

すると、ジガバチのべんごしがすぐに、「そのすがたは、わたしのいらい人たちにぴったりです」と言いはりました。

そんなしょうこでは、スズメバチのさいばんかんも決めることができなかったので、考える時間をとるために、さいばんを六週間お休みにしました。さいばんがまたはじまったとき、両方とも、たくさんのしょうにんをつれてきていました。まずアリがしょうにんの席につき、しつもんを受けようとしたちょうどそのとき、年とったかしこいミツバチが、さいばんかんに話しかけました。

「さいばんかんどの」とミツバチは言いました。「このさいばんは、もう六週間も決まらないままです。すぐに決めなければ、はちみつはなんの役にも立たなくなってしまいます。そこで、ミツバチとジガバチの両方に、はちのすを作らせてみてはどうでしょう。そうすれば、はちみつが本当はだれのものか、すぐにわかるでしょう。」

ジガバチたちは大声で、はんたいしました。かしこいスズメバチのさいばんかんは、そのわけがすぐにわかりました。ジガバチたちは、はちのすを作って、そこにはちみつをいっぱいにすることなどできないと、わかっていたのです。

「これではっきりしました」とさいばんかんは言いました。「はちのすを作ったのはだれか、作れなかったのはだれか。はちみつはミツバチのものです。」

> **本当の力は、することでしめされるのです。**

たんご と クイズ　ミツバチとジガバチとスズメバチ

honey はちみつ	**tree** 木	**Wasps** ジガバチ（ハチのなかま）
Bees ミツバチ	**Hornet** スズメバチ	**Judge** さいばんかん
Ant アリ	**honey comb** はちのす	

Q1 **さいばんかんをしたのは、だれ？**

① アリ　② スズメバチ　③ クマ

Q2 **年とったミツバチは、どうしたらいいと言った？**

① 両方にはちのすを作らせる　② はちみつを半分ずつ分ける　③ たたかって決める

Q3 **ジガバチたちがはんたいしたのはどうして？**

① つかれていたから　② はちみつがきらいだったから　③ はちのすを作れないとわかっていたから

こたえ

Q1　②　ミツバチとジガバチは、森のさいばんかんをしているスズメバチのところへ、このけんをもちこみました。

Q2　①　両方にはちのすを作らせれば、はちみつが本当はだれのものか、すぐにわかると言いました。

Q3　③　ジガバチたちは、はちのすを作ってはちみつをいっぱいにすることはできないと、わかっていたのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：A LibriVox Volunteer（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。